

#### 4 おしょうさんへの 手紙

##### 「感想文」についての考察

感想を書かせる場合、どのような角度から切り込ませるかが大事である。書きたくてしかたがない。書くことが、脳裡に満ちている。おおまかな構想も持っているというような子には、直ぐ書かせればよい。そのような子が多い程、望ましいわけである。

しかし、そうでない場合は、このようなことで書くようにと、指示することになる。例えば

- ・ おしょうさんに 聞きたいことがあったら、書いてみよう。
- ・ この童話のこの場面について、こんなことを考えたということを書いてみよう。
- ・ こんなことがわかったとか、こんなことは不思議だったということを書いてみなさい
- ・ 主人公のこんな点は好きで、こんな点はきらいだと書いてみよう。
- ・ ここはおもしろかったとか、わたしも似たようなことがあったと書いてみよう。

というように。このことで子どもの文章は大きく左右されるようである。

さて、「みかんの木の寺」をどのように読んだか、「おしょうさんへの手紙」の形で書いたものについて、考察を加えてみる。

1

④ 男子

ぼくは おしょうさんのほうが、まちがっていたとおもいました。でも ようくかんがえと おしょうさんのほうが ただしかったでした。

ぼくも こどもみたいなことをしたときもありました。そして やはりおこられました。そして そのばにまたきました。そして おこられたから あきらめました。

「だまって、ものをとる」「ぬすみ」ということをとり出して感想をのべている。「ぼくもしたことがある」「やはりおこられた」と、体験をもとに読んでるのである。いちろうが 手をのばす場面を特に心を動かして読んだのであろう。

2

③ 男子

おしょうさん なぜあんなうそをついたの。おしょうさん うそをつくと おにのはじまりだよ。ぼくは おしょうさんを わるい人だとも思いました。

おしょうさん なんで さいしょには うでまくりをしてたっていたのに さいごにはなぜやさしくしたの。そういうにするんだっいたらはじめから やさしくしてあげればいいのに。

「うそをついた」というのは、何をさしているのであろうか。「あと、四・五日だ」といって、更に「あと一日だ」と 札を下げたことを述べているのであろうか。

はじめ おこっていたのに、最後にやさしくしたのはなぜかということは、多くの子が気にしていることである。

3

⑤ 男子

おしょうさん ぼくうちには すっぱいみかんしかないから、あまいみかんを、おくってください。

それに おしょうさんは、るすのようなどきどこにいったのですか。おしょうさんは、まいにちうちで、おきょうをやって さびしくないのですか。

はじめ、「こらっ」といった時以外、出てこないおしょうさんをおかしいなあと、思っている子である。わざとそうしていたと解釈するかどうかで、おしょうさんは、どういう人かということは変わってくる。かくれて見ていたのだろうか。

4

⑥ 男子

おしょうさん お元気ですか。ぼくは 元気です。さいしょのころは、こわいおしょうさんと思っていたら おわりの方になって 親切になりましたね。

おしょうさんは、みかんの木にふだをかけたりにして考えましたね。

ぼくも おしょうさんの家へ行って みかんをもらいたいなあと思いました。